“GOD”の成り立ち　　2023.6.26

先週の土曜日の午後、NHK の番組「こころの時代」で、**追悼 小塩節▽神との対話▽ゴート語訳聖書の世界**の再放送がありました。ドイツ文学者である小塩氏が 2022 年 5 月に亡くなられた時、ドイツ語を教えておられたからでしょうか、大学の同窓会報にそのテーマで小塩氏のエッセイが掲載されました。とても興味深く読み、今回の再放送も実に興味深く見ることができました。

左の図は、なめして、染色した羊皮紙に銀を溶いて記したゴート語の聖書の写本のレプリカです。若い日に小塩氏はこれのオリジナルをスエーデンのウプサラ大学図書館で何気なく目にし、なんとなく読み解き、非常に感銘を受けたとまず言われました。ゴート語とはもはや死語となっていますが、東欧に 4 世紀頃に勢力を伸ばした蛮族と言われたゴート人の話し言葉です。彼らは文字を持たなかったのです。

ゴート人の父とドナウ川北側のゴート人の地域に奴隷として連れて行かれたギリシャ人の母の子であるウルフィラ（311？ - 383）がゴート語を文字化し、ゴシック文字を発案したのです。

彼は母の影響を受け、キリスト者でした。彼は聖書をゴート人に伝えたいと願い、350 年にギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語の文字を取り入れてゴシック文字を発案し、聖書を翻訳しました。ゴート人の大使として、キリスト教社会との交渉にあたり、後には司教となり、布教に励みました（左想像図）。そればかりか、広大な土地を得て、キリスト者の村、コミュニティを作り、平和な国作りをしたと言います。彼の作ったゴシック語が、ゲルマン語、つまり、ドイツ語、英語の元となりました。

ヘブライ語では「エロヒム」と呼ばれた神は「万軍の主」のイメージでしたが、ギリシャ語では「デウス」と呼ばれ、「光なる神」の印象に変わりました。ゴート語には神という言葉がなかったので、ウルフィラは「グス」を用いました。グスとは「相談相手」という意味でした。

ここにウルフィラの信仰告白が現れています。戦いとも光とも全く違う、人格的な神の像といっていいでしょう。相談したり、助言を求める時、問題や悩みの解決となるように対話してくれる神の像です。グスはやがて GUTH とかかれ、GOTT、GOD となって行きました。

小塩氏はオリジナルをなんとか読み解こうとした時に、その箇所がマタイによる福音書 6 章の「主の祈り」の部分であることに気づいたと言います。ᚩᛏᛏᚩᚢᚾᛋᚩᚱ、ᚹᚢᛁᚾᚻᛁᛗᛁᚾᚩᛗ　の部分です。これは日本語では「天におられるわたしたちの父よ」の部分です。ᚩᛏᛏᚩ はゴート語では「アッター」と読み、「父ちゃん、パパ」という言葉です。まさしく主イエスがゲツセマネで「アッパ、父よ」とアラム語で親しく呼び、祈られたことと合致しています。小塩氏は「音は形を表す」とも言われます。

小塩氏は「父に幼子が呼びかけるとき、父から返事が返ってくる」と言われ、「神を発見する時、自分を発見するのだ」と、神と人間の関係を説かれました。聖書の翻訳の長い歴史と人間の信仰の思いを、情熱を込めた言葉を発しながら、熱く語ってくれました。